

資料

第13回 GX実行会議

「我が国のグリーントランスフォーメーションの加速に向けて」

2024年10月31日

三菱商事株式会社

常務執行役員電力ソリューショングループCEO

岡藤 裕治

GX実行会議（第13回）レジュメ

1. はじめに

日本の「産業競争力強化」に資するGX実現に向けて、引き続き過去12回の議論と一貫性のある議論を継続し、年内のGX2040ビジョン素案策定に取り組んで頂きたい。

2. 脱炭素電源の重要性

- **産業競争力の源泉はエネルギーのコスト競争力**である点を改めて強調したい。日本の産業の空洞化を防ぎ、地域経済の成長を牽引するためにもエネルギーコストを持続可能な形で下げていくこと、即ち**再エネ等クリーンエネルギーの安定的な供給と効率的な活用**が求められる。
- DX進展による電力需要増加に対応する為にも、大型再エネ等脱炭素電源の計画から完工迄に必要なリードタイムに鑑み、これら**脱炭素電源に必要な投資が時機を逸することなく講じられるような支援策**が一刻も早く必要。支援策において、**事業者の長期予見性を高めること**は最も重要な要素の一つであり、事業者がコントロール出来ない外部要因による影響を一定程度調整する仕組み等、**事業者が事業リスクを定量化できる制度等**が求められている。
- 再エネ主力電源化を進める上では、上述の投資支援策に加え、**再エネの出力変動を電力システム全体で補う為のグランドデザイン**（送配電網整備、蓄電・DR導入促進、電力市場取引の流動性/厚みを向上させる取組み等）の整備も必須と考える。

3. GX産業

- 繰り返しになるが、経済成長という観点では世界に伍して競争に勝ち抜くことが極めて重要。**日本発のグローバルプレイヤーを戦略的に支援**する発想を持ち、重点分野に対して**時機を逸することがないようスピード感を意識した支援**をお願いしたい。
- 生成AI進展のポテンシャルを取り込み日本の経済成長につなげていく為にも、**データセンターを始めとするAIインフラ・AI基盤の国内整備・拡大は不可欠であり**、これらインフラ・基盤の土台として、**コスト競争力のある脱炭素電源の供給力が十分に確保**されることが求められる。同様にこれらの整備・拡大により、**日本企業がその裨益を受けられる産業構造を構築**していくことが日本の経済成長には必要であることも強調したい。

4. GX市場創造、グローバル認識・ルール

- **GXの価値が評価される市場造り**には賛同。日本の産業構造上、評価の仕組みが日本国内に閉じているとその実効性は低いと考えられる為、**他国とも連携した市場造り**を期待したい。またGXの価値は非化石価値に限定されるものではなく、**付加価値をより高く評価する需要家が自社製品をより差別化できるような仕組み**も必要ではないかと考える。